

恒星間飛行が
当たり前になって
数千年

人間をはじめとする
知的生命体は
支配域を順調に
拡大していった

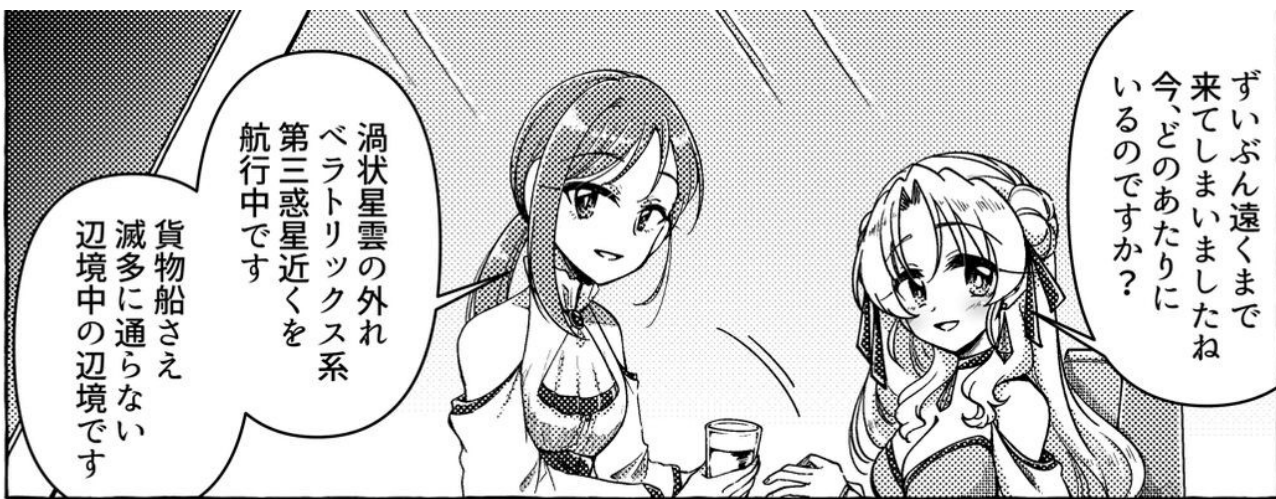
長期間の
惑星間外遊
お疲れ様でした

あと3時間ほどで
ワームホールに
着きます

お飲み物を
用意しましたよ
よろしいですか？

フシヤナ女王殿下

ありがとう
では
お水をお願いします



ずいぶん遠くまで来てしまいましたね今、どのあたりにいるのですか？

渦状星雲の外れベラトリックス系第三惑星近くを航行中です

貨物船さえ滅多に通らない辺境中の辺境です



この第三惑星は安定した軌道を持ち生命体の存在が期待されています

…といっても探査機も入れていない未開惑星ですが

美しい星…

もし住んでいる方がいるのであれば

いつの日かお友達になりたいですね



え!? 非常ベルが…ツ!

機材トラブルなのか惑星の特異性質なのか…

きゃあっ!!

伏せてくださいっ!!

原因は定かではありませんが急に船の制御が効かなくなりました

船は惑星の重力に
引つ張られ
墜落

私ばかりうじて
王女と
脱出することができた



よかった
気温も温暖で
植物も生えている…

日のあるうちに
水と食料を
確保しましょう

ええ…



すみません…

私が早く
船の異常に
気づいていれば…

貴方が
気に病むことでは
ありませんよ



丸一日歩き続け
ようやく
淡水の泉を
見つけました

澄んだ空気と水…
この星には
文明は
まだないようですね

次は食べ物を
見つけないと…

はあ…
気持ちいい…

!?

今
人影が…ツ!

私たちの
服…ツ!!



待つ...!?

待つ...!



その...
ようですね...

人間...?



見かけは人間そっくりですが

言葉は喋れないようですね

あれがこの惑星の最高の生物…なのではないか？



侮辱するような言い方をしないでくださいねよ

えっと…はじめまして

——って
フシヤナ様!?

?



ほわ!? 王女に何を…ツ!

だ、大丈夫…
あなたは離れていて
ください



私たちは
外の世界から
やってきました

厚かましい
お願いですが
食べ物を分けて…

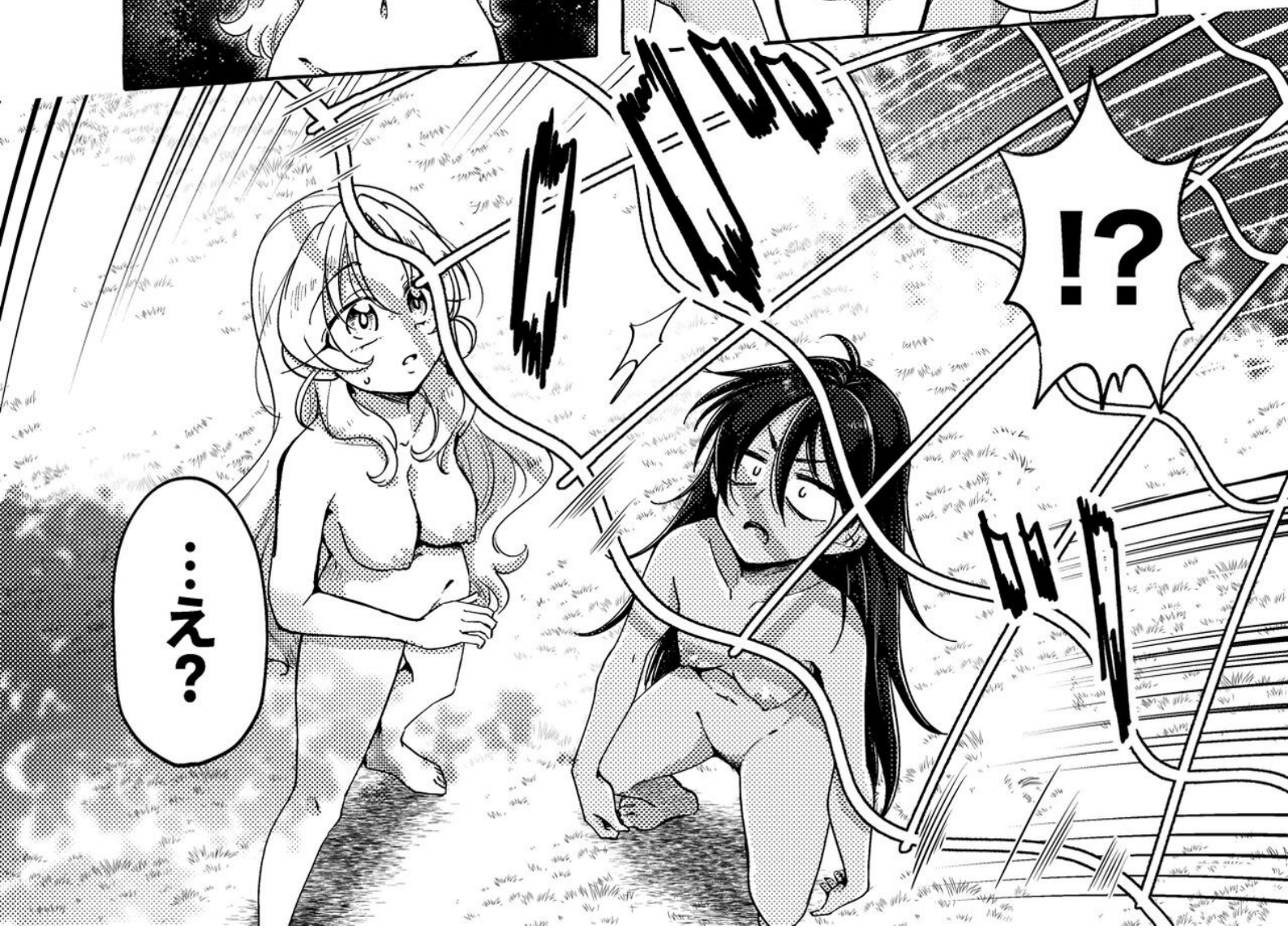
ふり

ふり



せめて
お肌を…!

彼女たちは
隠していません
ここでの郷に
従いましょう



…え？

!?





油断した…
原始的だけど
文明があった
なんて…

あれが
この星の
支配生物…
人間を獣みたいに
扱うなんて…!!

フシヤナ様も
ひよつとして
あんな風に…!!

ゆ
許せない…!!

こんな場所に
いつまでもいたら
危険だ…!!

はやく
フシヤナ様を
救出して
遠くに逃げないと

部屋が
いっぱい…

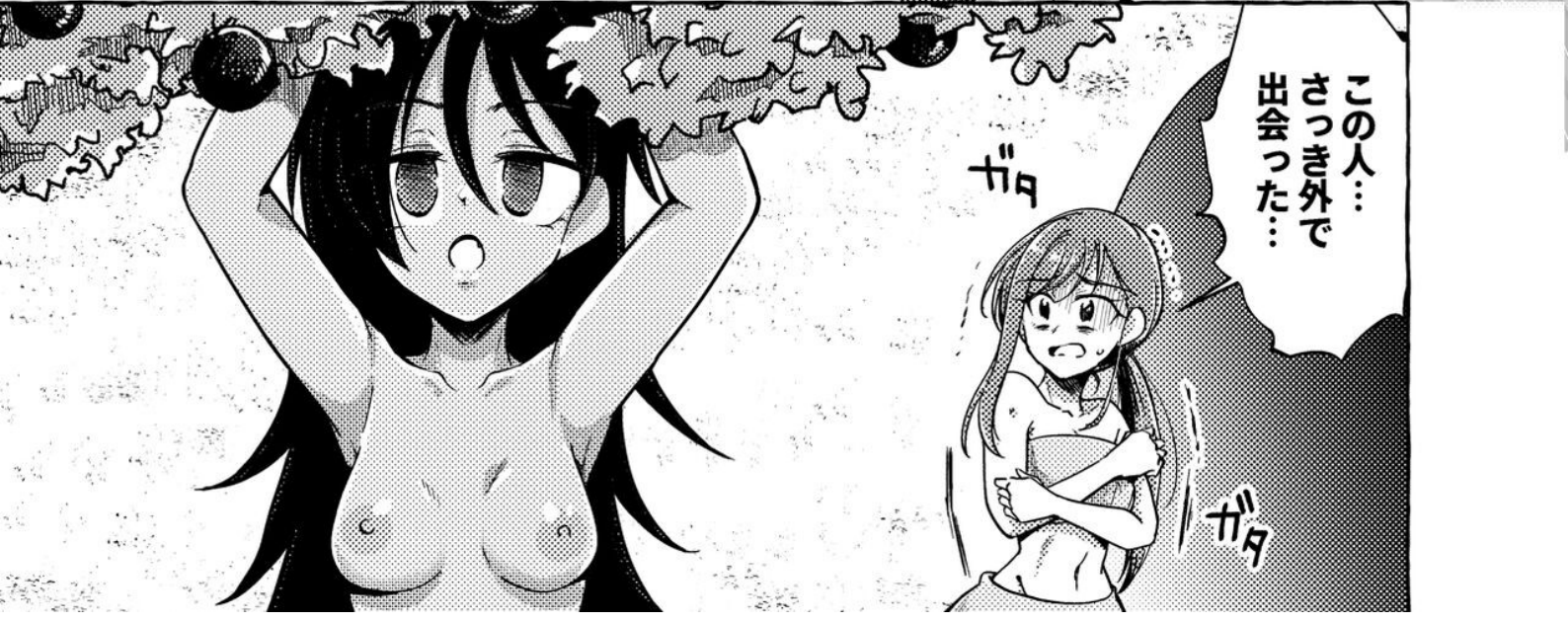
ん？



カッ...ツ

なに...
この部屋...?

人の...
剥製が...ツ!

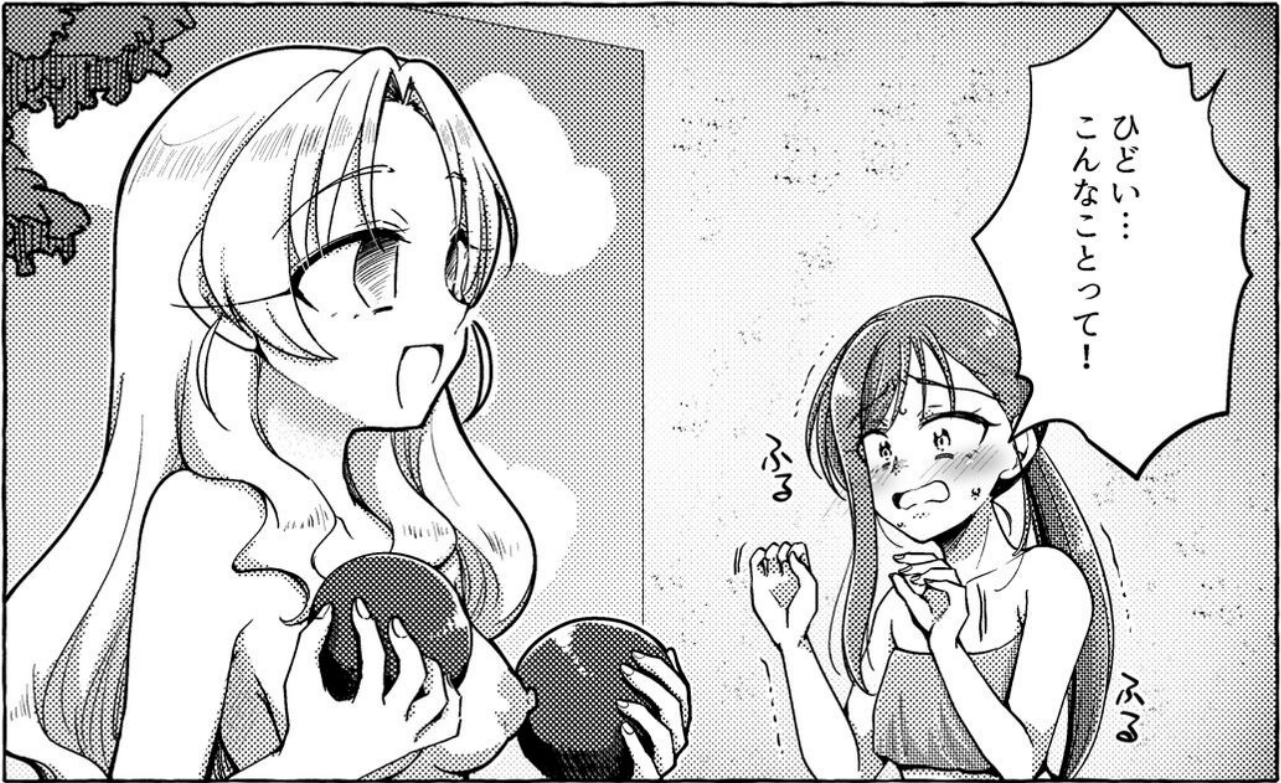


この人...
さっき外で
出会った...

ガッ

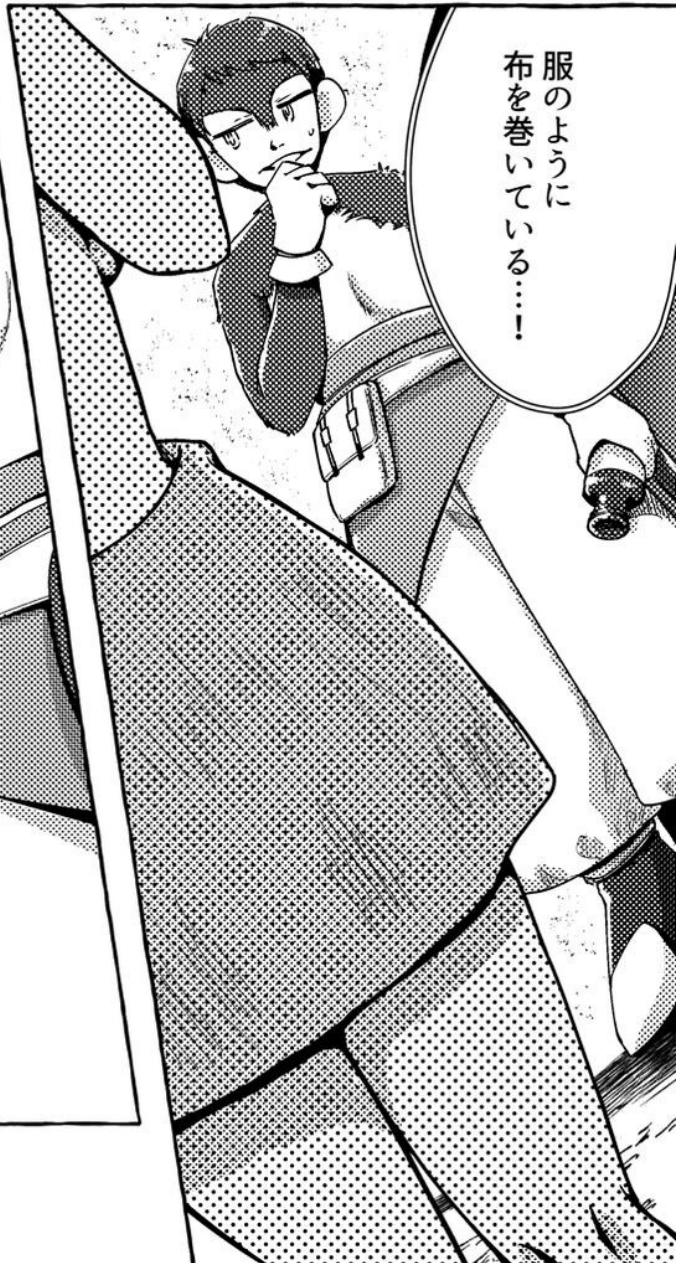
ガッ







本当だ





サルが
羞恥心だなんて
面白いことを
言いますねえ

—そのサルが

でも金髪の変種なんて
見たことないし
高知能の
突然変異とか：

考えすぎですよ



もう一匹は耳に
イヤリングが
ついていたので
飼い主がいたことは
間違いない：

たぶん金髪サルは
富裕層向けに
売られていた
動物なのでしょう



捕まえる前に
様子を見ていましたが
変わった所はなかった

ちようど
群れのサルに
食い物を
乞っていました

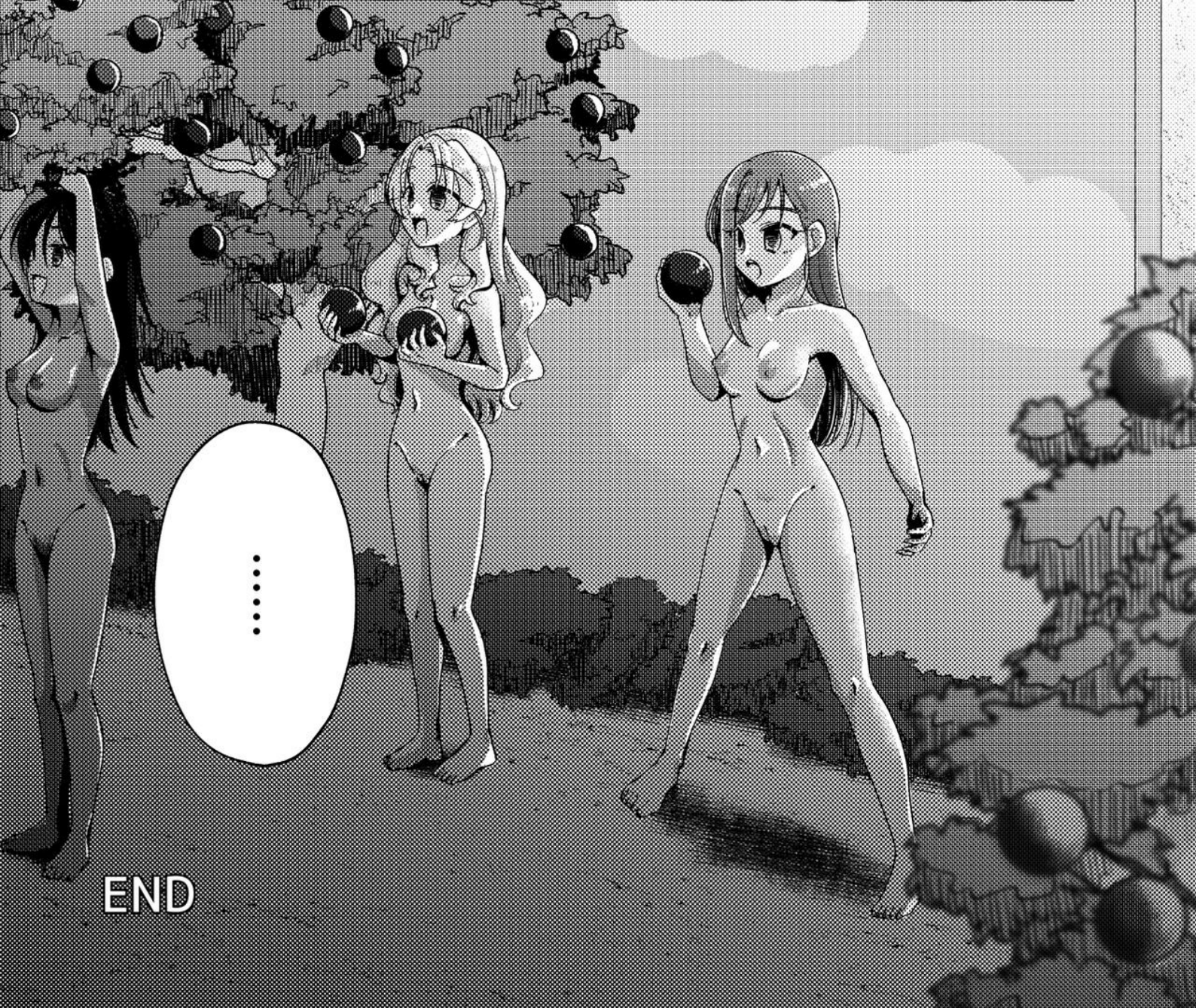
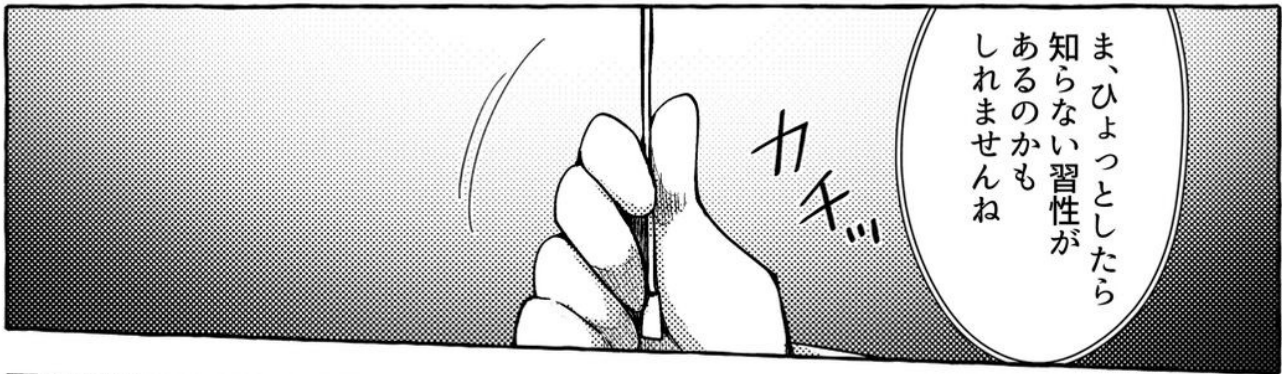


金髪のは
飼いサルだったから
群れがなく
食べ物を得る
手段がない



毛づくろいしたり
必死に気に入られようと
していたっけ





END